

第3回 2025年 大阪・関西万博 政府出展事業検討会議 議事要旨

■日時：2022年2月16日（水）14:00～15:05

■参加者

池坊 専好氏、古賀 信行氏、コチュ・オヤ氏、佐藤 オオキ氏、塩瀬 隆之氏、千 宗室氏、
鳥井 信吾氏、米良 はるか氏

■議事要旨

●事務局より、資料3に基づいて、日本政府出展事業（日本館）基本計画（案）について
説明した後、有識者から意見を頂戴した。各有識者からの主な意見は以下の通り。

・第1回、第2回では、様々な意見があったが、今回の基本計画案ではその多くが取り入れられている。

・様々な身体的な特徴を持つ人、文化背景が違う人、現在の国際情勢において様々な状況下におかれている人にとっても、それぞれが楽しめ共有できる工夫、捉え方が明記されている。激動の時代にあって、万博の意義というものがそこにある。

・日本館を訪問した証となるような、キラーコンテンツがあると良い。コンセプトをよりシンプルなものとし、若者や子どもたち、外国人など、すべての来場者に伝わりやすいメッセージを発信することが重要である。また周囲のパビリオンとの兼ね合い・調和については留意する必要がある。他の出展者との情報連携をお願いしたい。

・今後、ビジュアルにも強い印象をつけた方が良い。テーマに興味をそこまで持たない人も、SNSに上がったビジュアルを見てすごいと思うデジタルコミュニケーションが生まれる。

・日本食や茶道などの日本文化は外国人には興味深いので、日本文化を体験できるコーナーなどを作れば、より付加価値の高いものになるのではないかと。

・「次世代」「多様性」という言葉が入っているが、あらゆる年代の人々にわくわくしてもらい楽しんでもらう事が重要。特に万博チルドレンの方々に参加してほしい。

・今回の万博は未来社会の実験場だと言っているのだから、ぜひ新しい社会モデルに実験的に挑

戦してほしい。日本館を見た人に、自分の国でも真似したいと思ってもらえるような形で、日本館を作っていく過程のチャレンジを紹介できたらよいと思う。ぜひ作っていく過程をシステム輸出できるような形で、日本館のチャレンジ自体を世界に発信する場になればと思う。

- ・日本館のメッセージを、子どもたちのわくわく感やクリエイティビティにヒットし、その子どもたちがその後の人生を考えるきっかけとなるような体験として伝えることが重要。

- ・他のパビリオンともよく連携し、1つ1つのパビリオンがそれぞれの役割を持って一つの空間を構成することが、万博としての魅力にもつながるのではないかな。

- ・「あいだ」に焦点が当たっているというのが、万博が時代とともに成熟してきた1つの証であり、そこを見せるのも非常に日本的だと思う。たくさんものを用いて、どうシンプルに提示できるか。シンプルだからこそ、人はいろいろなことを考えられるし、人と話し合ったりする。シンプリシティ、日本の美意識、感性をそこで発揮してほしい。

- ・誰でも入れて、少しでも楽しめる、門戸が広い間口を設ければ、自然に記憶に残る万博になるだろう。生きていること、つまりいのちは奇跡。その集まりがこの世の中であり、誰もがその奇跡の中で自分のいのちを全うしようとしている。万博を通じ、誰もがいのちの尊さ、そして次にいのちを繋ぐ役割について考えることができれば、誰にとっても、行って良かったと思える万博となるだろう。

以上